

指文字の変遷

現在の指文字（ 大曾根式 ）

長 音 符					
(構図)					
半濁音は清音を上へ					
(例) ぶ					
濁音は清音を右へ					
(例) が					

図 2-6 大曾根式指文字

＊神田和幸著「指文字の研究」P63（光生館，1986）から引用

現在、日本で一般的に使用されている指文字は、大阪市立聾唖学校(現・大阪府立中央聴覚支援学校)の教員だった大曾根源助が渡米した際にヘレン・ケラーと出会い、アメリカ式指文字を知ったことから発展した。帰国した大曾根は、アメリカ流の片手式指文字と共に、それまで日本で使われていた古河式・渡辺式・高木式・数字手真似・文字の形(例えば「へ」)を参照して、原案をつくった。その原案をたたき台にして校長の高橋潔を初めとする同校教員達が研究し、大阪市立聾唖学校制定の指文字として完成させた。昭和 6 年（1931 年）、同校は完成した指文字を正式に採用・実施し、それが全国に普及していった。

日本最初の指文字（京都盲啞院：古河太四郎考案）

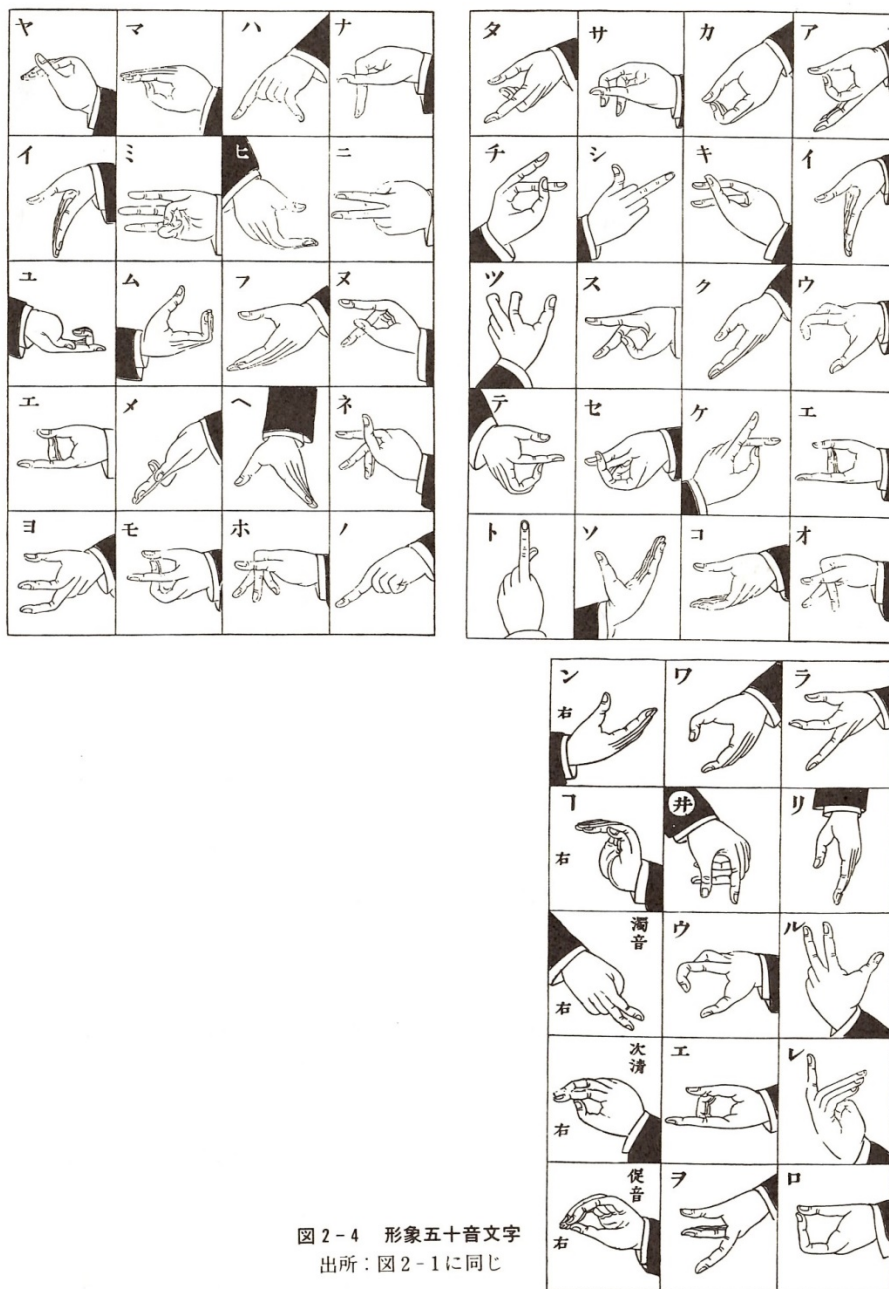


図 2-4 形象五十音文字
出所：図 2-1 に同じ

＊神田和幸著「指文字の研究」P53（光生館，1986）から引用

京都府立聾学校に現存する「五十音手勢図」（明治 11 年）、「五十音字形手勢」（明治 12 年）、「手算法略図」（明治 11 年）、「画掌法図」（明治 12 年）を見る時、その指導法は、今日における指文字(五十音手勢、五十音字形手勢)、数詞の手指記号(手算法)、空書(画掌法)を含む手話表現を使用するものである。